

1月の植物 ヤブコウジ *Ardisia japonica* (Thunb.) Blume ヤブコウジ科

冬になると森や林には実をつけた草木が多い。実の色は赤や黄、青、黒、紫色と様々。中でも赤色はよく目立つ。鳥に食べてもらいたいためか。赤色の実をつけ、昔のお金にたとえた一両（ツルコウジ）、十両（ヤブコウジ）、百両（カラタチバナ）、千両（センリョウ）、万両（マンリョウ）は特にめでたいので門松などお正月の飾りにする。

ここに紹介するヤブコウジは丈が10cm内外だが草ではなく木である。葉は長楕円形で縁に細かいぎざぎざのあり、数枚を茎の上部につける。茎には柔らかい毛が生える。花期は7月頃で、小さな5弁の白やピンクの花（合弁花）を咲かせる。冬になると5mmほどの球形の実を2個ほどつける。真っ赤にできて見とれるほどかわいい。最近こけ玉などの観賞用にされているが、やはり林下で見るのが一番である。北海道南から九州までの山地の木陰に地下茎を伸ばし群落をつくる。佐賀の方言にヤママンリョウ、ヤマリンゴがある。



スギの幹に生えたヤブコウジ 2016.12.17 雲の尾峠



右：林下のヤブコウジ